

広がりし海原に

(平成三十年度寮歌)

樋浦一希君 作歌・作曲

一

春あけぼのの夢に見て
カムイの聲に導かれ
舟をこぎいで流れ来ぬ
北都夜明けの金字塔
広がりし草原にひとりたち
はるかなる大雪の山
のぞみみん

二

夏宵闇の緑風に
森が葉音を雨ときき
楡の木立をさまよえば
紅はゆる山小屋ひとつ
広がりし高原にひとりたち
はるかなる天空の星を
身に浴びん

三

秋夕暮れの鹿の声に
恵みの季節は過ぎゆきて
入日の茜に涙する
冬音せまりき危機焦燥
広がりし牧野にひとりたち
はるかなるシベリアの風
気も霧散す

四

冬つとめてのゆめうつつ
かそかに遠く銀狼の咆哮
凍てつく寒さに身を起こし
胸に秘めたる青写真
広がりし雪原にひとりたち
はるかなる白雲の頂
旅に追ふ

五

今祭日の猛き火よ
寒風蒼碧を貫かん
大地を揺るがして嵐おこる
新風破天の新時代
広がりし蝦夷に寮友は和し
はるかなる先代の魂
解き放つ